

子どもの生活実態調査

結果概要

1 調査の概要

(1) 調査目的

子どもの生活習慣や家庭の状況等を把握し、今後の施策展開の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査方法

- ① 調査地域 岩国市全域
- ② 調査方法 学校配布・郵送回収（インターネットによる回答を併用）
- ③ 調査対象 市内の学校に通学する小学5年生 979 世帯・中学2年生 1,086 世帯
- ④ 調査時期 令和6年5月16日～令和6年6月3日

(3) 回収結果

		配布数(票)	有効回収数(票)	有効回答率(%)
全体	保護者	2,065 票	1,061 票	51.4%
	子ども	2065 票	964 票	46.7%
小学 5 年生	保護者	979 票	520 票	53.1%
	子ども	979 票	466 票	47.6%
中学 2 年生	保護者	1,086 票	541 票	49.8%
	子ども	1,086 票	498 票	45.9%

(4) 報告書の見方

- 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- 2つ以上の回答（複数回答）を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- グラフ中の「n」は質問に対する回答数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。

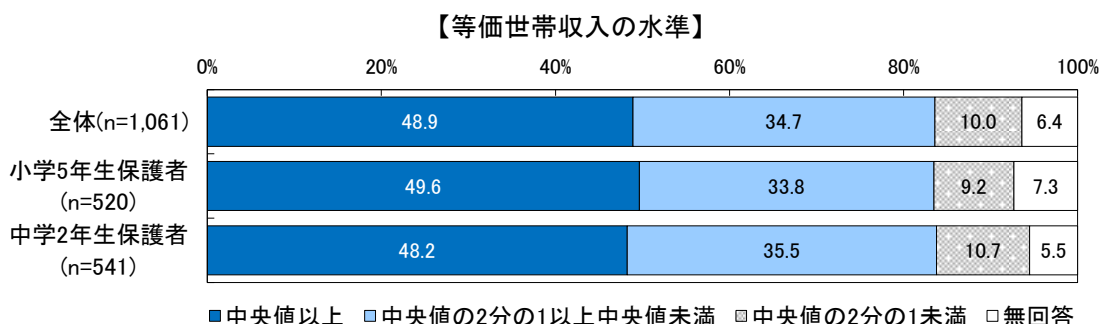
2 保護者票調査結果

(1) 等価世帯収入の水準

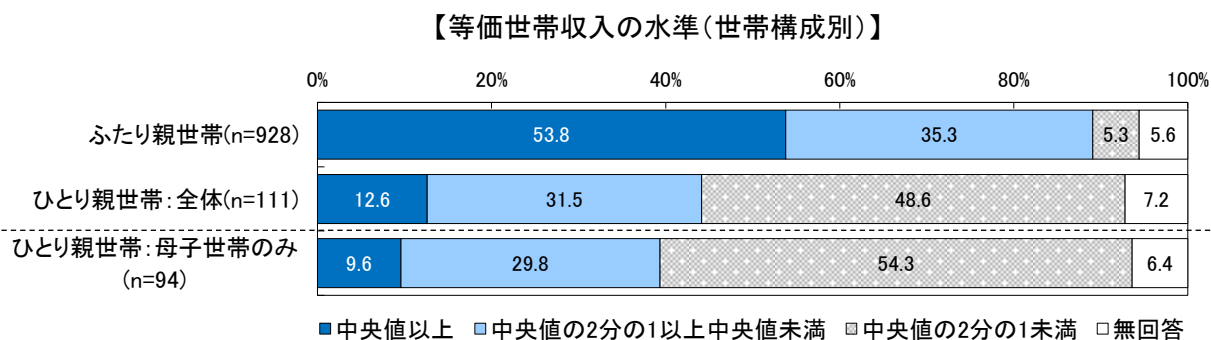
- 本資料においては、世帯の年間収入の水準について、「子どもと同居し、生計を同一にしている家族の人数」の情報も踏まえて下記のような処理をし、「等価世帯収入」による分類を行う。
- また、特に「中央値の2分の1未満」に該当する世帯を、「貧困」の課題を抱えている世帯であると考え、集計・分析を行っている。また、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する世帯も「貧困」の課題を抱えるリスクが高い世帯であると考え、回答傾向の把握を行っている。

- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1,000万円以上」は1,050万円とする）。
- 上記の値を、保護者票で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- 上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する。

- 等価世帯収入の水準について、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する割合は、小学5年生保護者で33.8%、中学2年生保護者で35.5%、「中央値の2分の1未満」に該当する割合は小学5年生保護者で9.2%、中学2年生保護者で10.7%となっている。



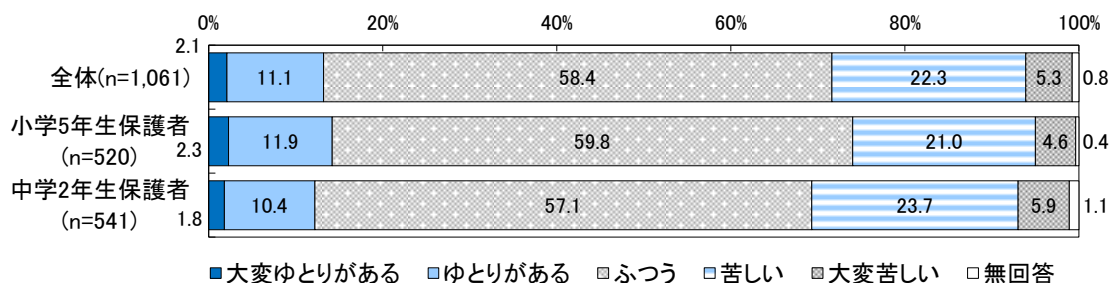
- 世帯構成別にみると、「中央値の2分の1未満」に該当する割合は、ひとり親世帯で4割台となっており、母子世帯では5割を超えている。



(2) 現在の暮らしの状況

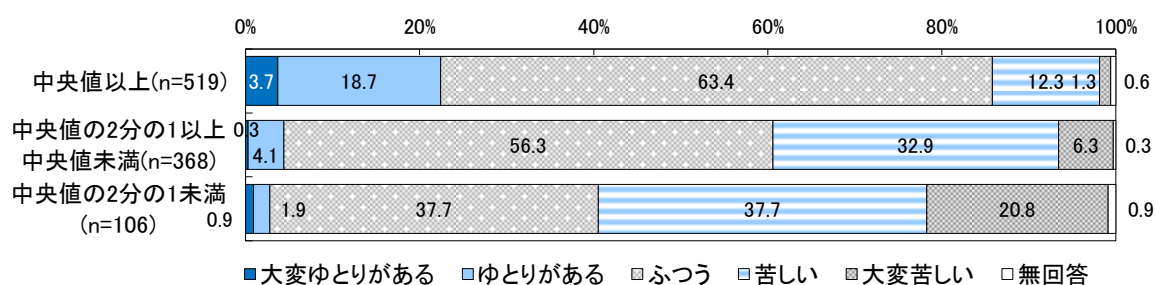
- 現在の暮らしの状況について、『苦しい』（「苦しい」＋「大変苦しい」）と回答した割合は小学5年生保護者で25.6%、中学2年生保護者で29.6%、となっている。

【現在の暮らしの状況】



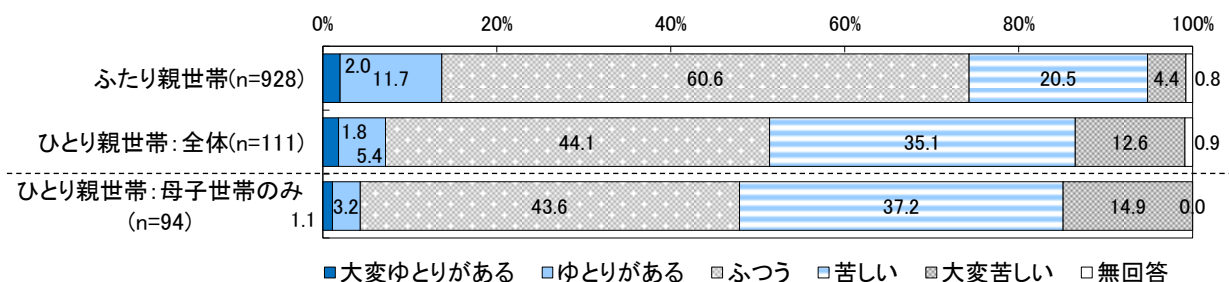
- 等価世帯収入の水準別にみると、『苦しい』と回答した割合は、等価世帯収入の水準が低いほど高く、「中央値の2分の1未満」の層で5割台後半となっている。

【現在の暮らしの状況(等価世帯収入の水準別)】



- 世帯構成別にみると、『苦しい』と回答した割合は、ひとり親世帯で4割台となっており、母子世帯では5割を超えている。

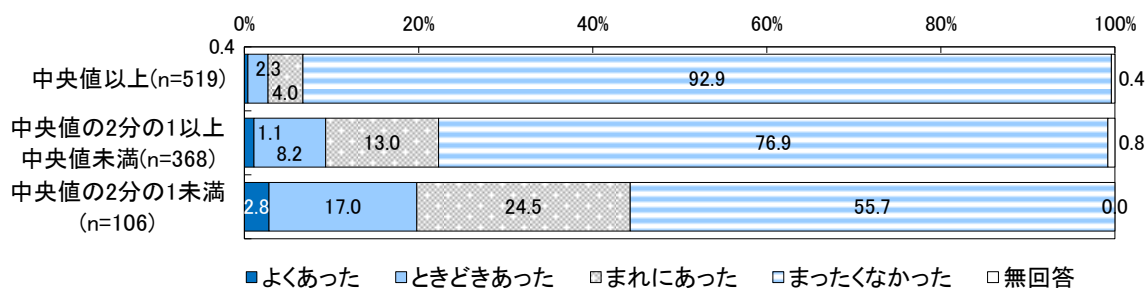
【現在の暮らしの状況(世帯構成別)】



(3) 食料における経済的状況

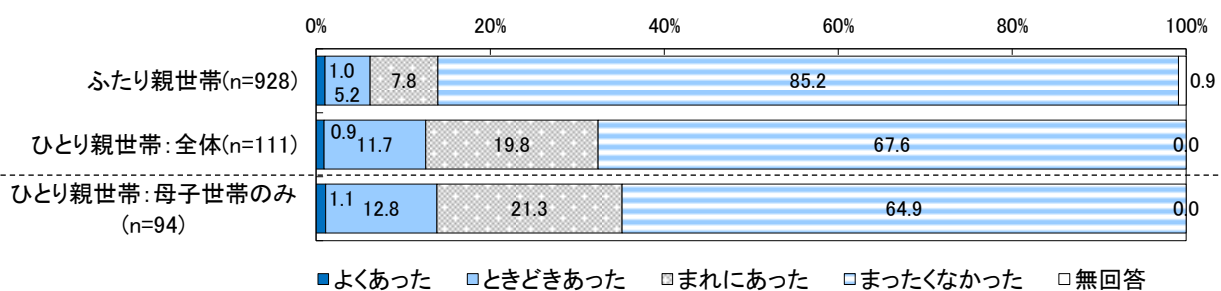
- 食料における経済状況について、等価世帯収入の水準別にみると、『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）と回答した割合は、等価世帯収入の水準が低いほど高く、「中央値の2分の1未満」の層で4割台となっている。

【食料における経済的状況（等価世帯収入の水準別）】



- 世帯構成別にみると、『あった』と回答した割合は、ひとり親世帯で3割台となっている。

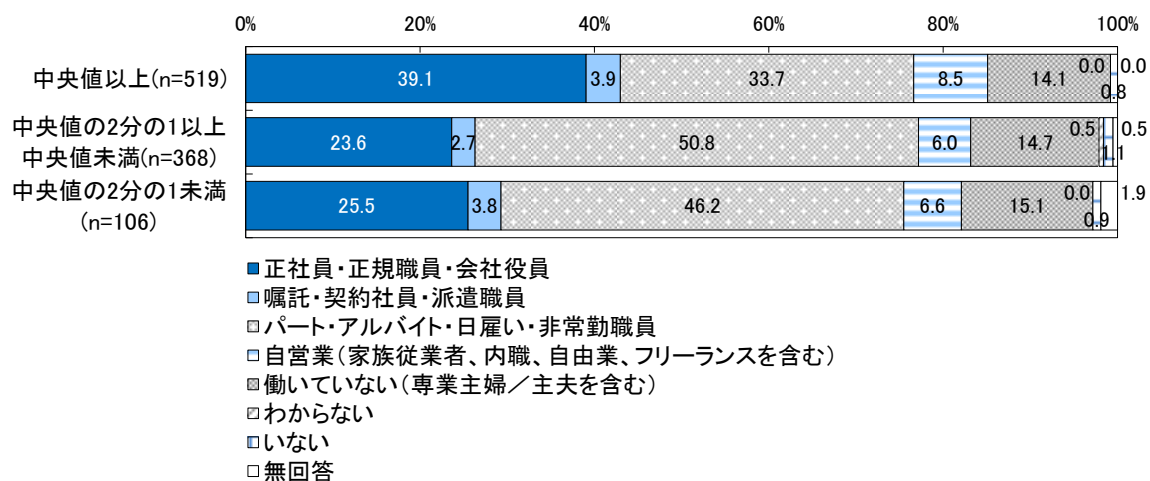
【食料における経済的状況（世帯構成別）】



(4) 就労状況

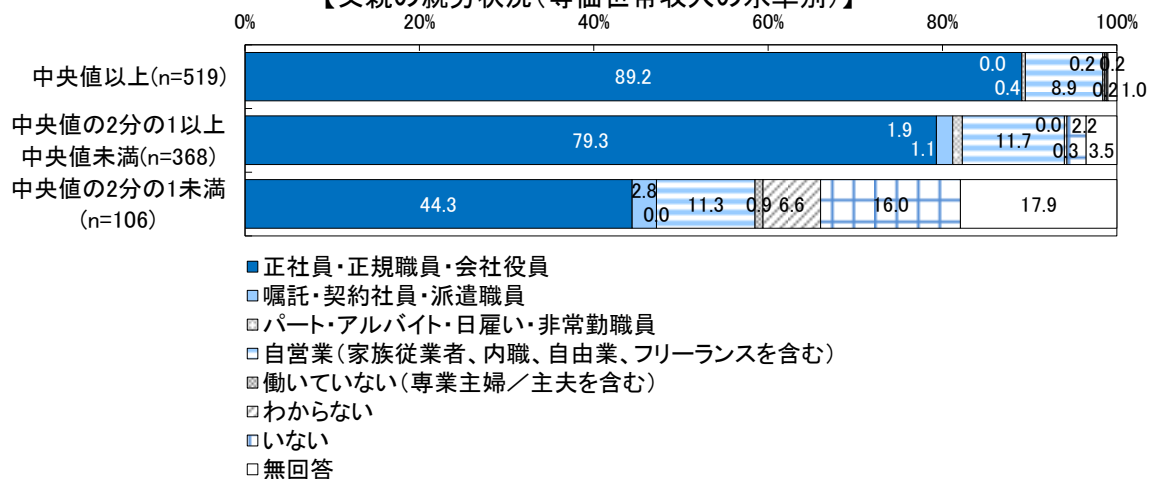
- 母親の就労状況について、等価世帯収入の水準別にみると、「正社員・正規職員・会社役員」と回答した割合は、「中央値以上」で 39.1%、「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」で 23.6%、「中央値の 2 分の 1 未満」で 25.5%となっている。

【母親の就労状況(等価世帯収入の水準別)】



- 父親の就労状況について、等価世帯収入の水準別にみると、「正社員・正規職員・会社役員」と回答した割合は、「中央値以上」で 89.2%、「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」で 79.3%、「中央値の 2 分の 1 未満」で 44.3%となっている。

【父親の就労状況(等価世帯収入の水準別)】

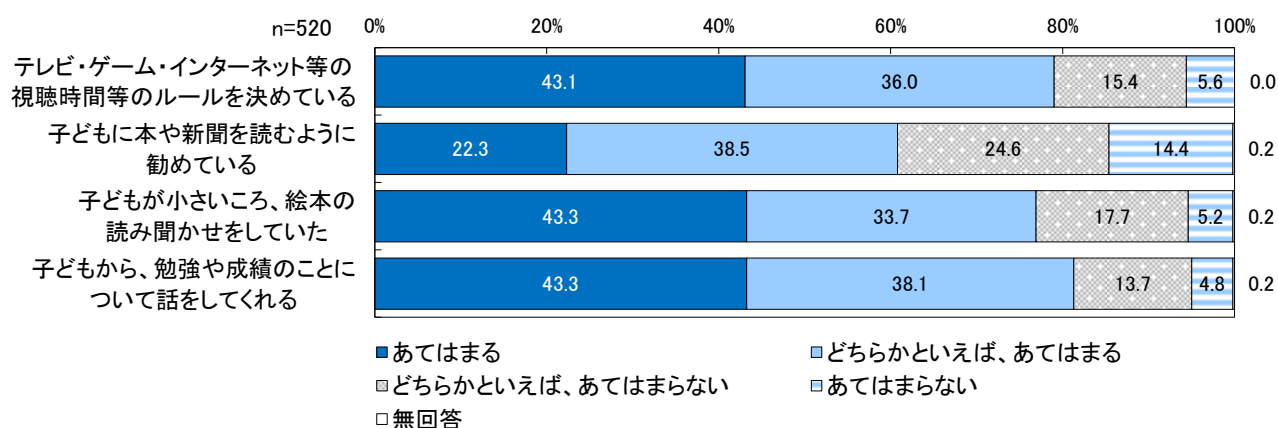


(5) 子どもとの関わり方

- 子どもとの関わり方について、小学5年生保護者では、『あてはまる』（「あてはまる」+「どちらかといえば、あてはまる」）と回答した割合は、「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」で79.1%、「子どもから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」で81.4%となっている。

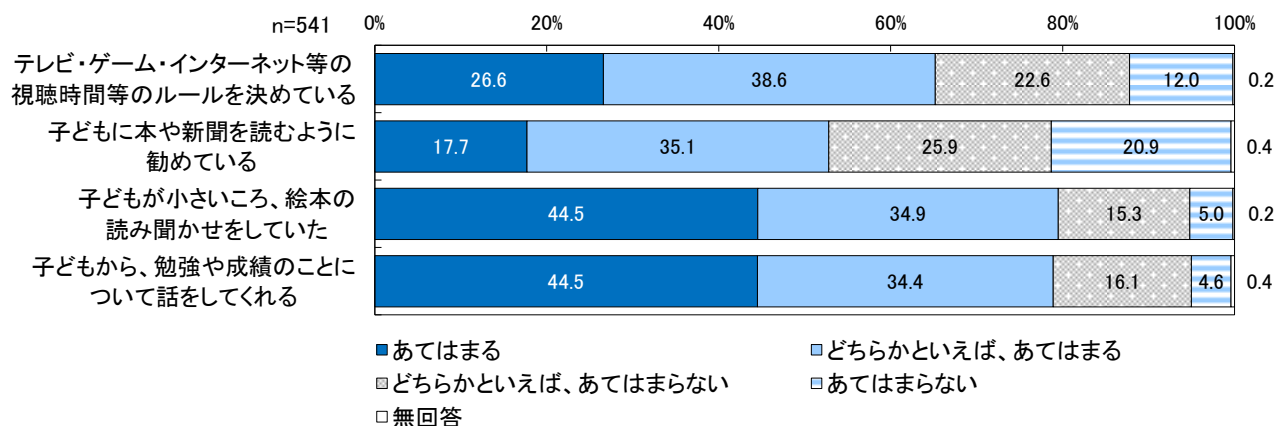
【子どもとの関わり方】

（小学5年生保護者）



- 中学2年生保護者では、『あてはまる』と回答した割合は、「子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた」で79.4%、「子どもから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」で78.9%となっている。

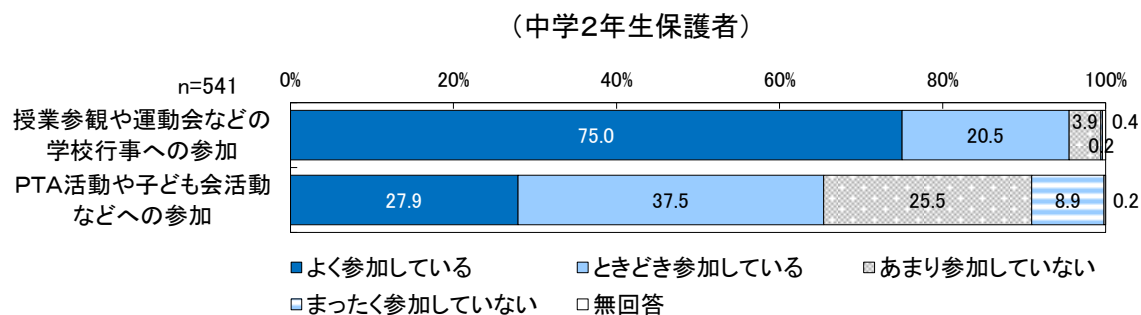
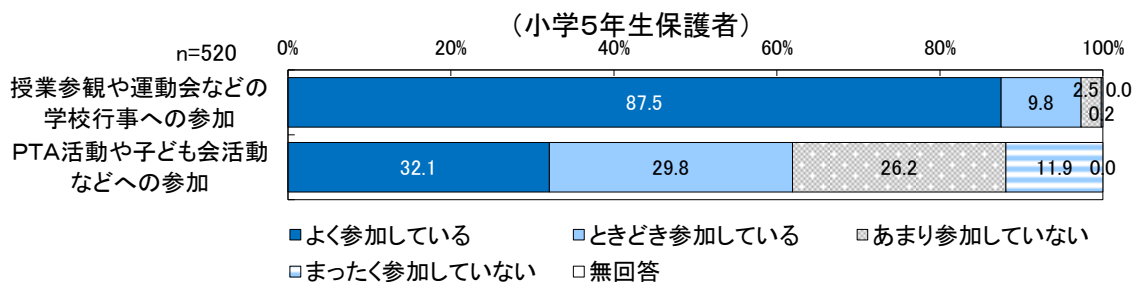
（中学2年生保護者）



(6) 子どもの行事への参加状況

- 子どもの行事への参加状況について、『参加している』（「よく参加している」＋「ときどき参加している」）と回答した割合は、「授業参観や運動会などの学校行事への参加」が小学5年生保護者で97.3%、中学2年生保護者で95.5%、「PTA活動や子ども会活動などへの参加」が小学5年生保護者で61.9%、中学2年生保護者で65.4%となっている。

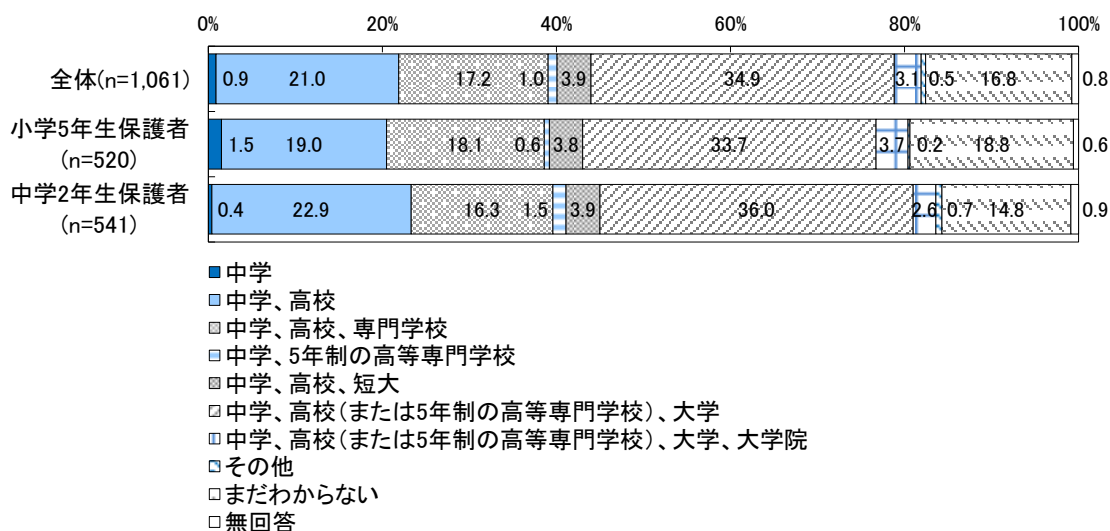
【子どもの行事への参加状況】



(7) 子どもの将来の進学展望

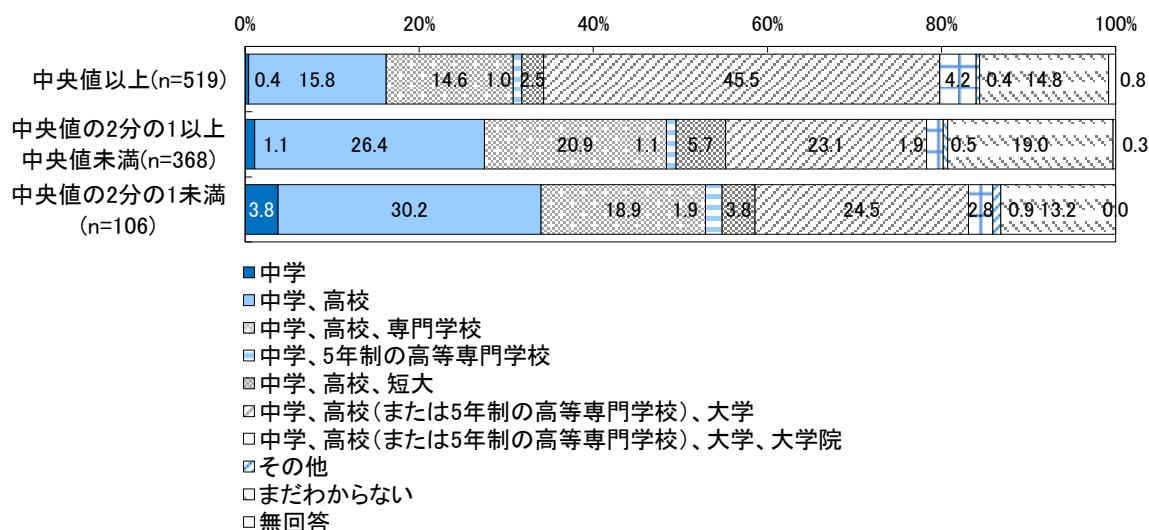
- 子どもの将来の進学展望について、『大学以上』（「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」＋「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学、大学院」）と回答した割合は小学5年生保護者で37.4%、中学2年生保護者で38.6%となっている。

【子どもの将来の進学展望】



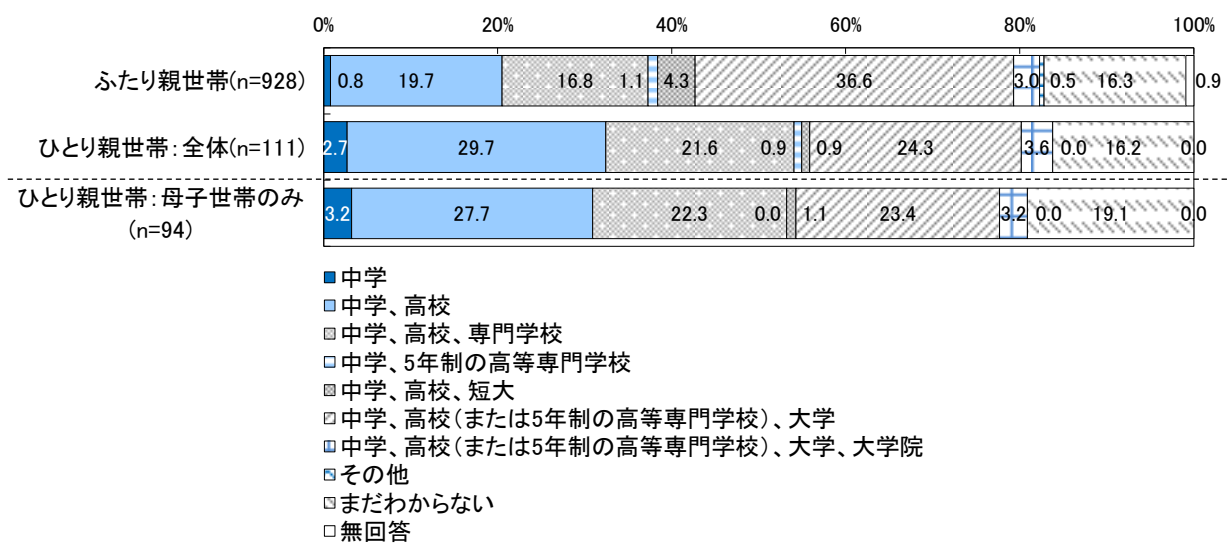
- 等価世帯収入の水準別にみると、『大学以上』と回答した割合は、等価世帯収入の水準が低い世帯で2割台となっている。

【子どもの将来の進学展望(等価世帯収入の水準別)】



- 世帯構成別にみると、『大学以上』と回答した割合は、ひとり親世帯で約3割となっている。

【子どもの将来の進学展望(世帯構成別)】

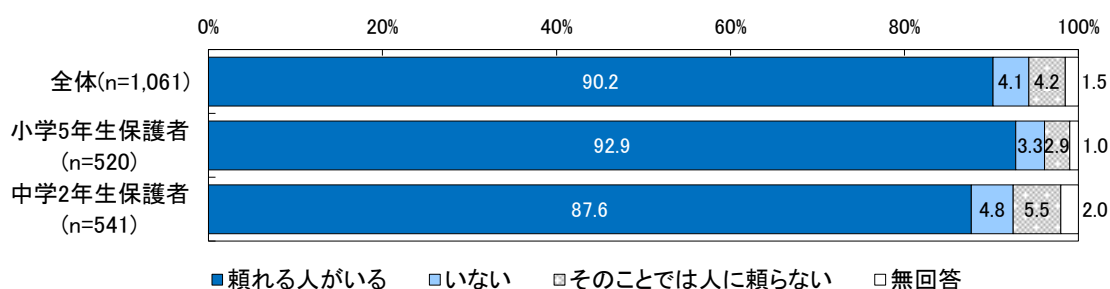


(8) 頼れる人の有無

- 子育てに関する相談で頼れる人の有無について、「いない」と回答した割合は小学5年生保護者で3.3%、中学2年生保護者で4.8%となっている。
- 重要な事柄の相談で頼れる人の有無について、「いない」と回答した割合は小学5年生保護者で3.1%、中学2年生保護者で6.3%となっている。
- いざという時のお金の援助を頼れる人の有無について、「いない」と回答した割合は小学5年生保護者で12.5%、中学2年生保護者で11.1%となっている。

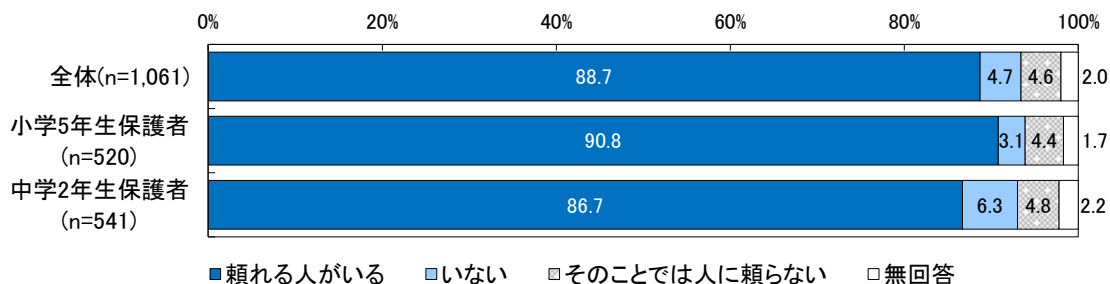
<子育てに関する相談>

【子育てに関する相談で頼れる人の有無】



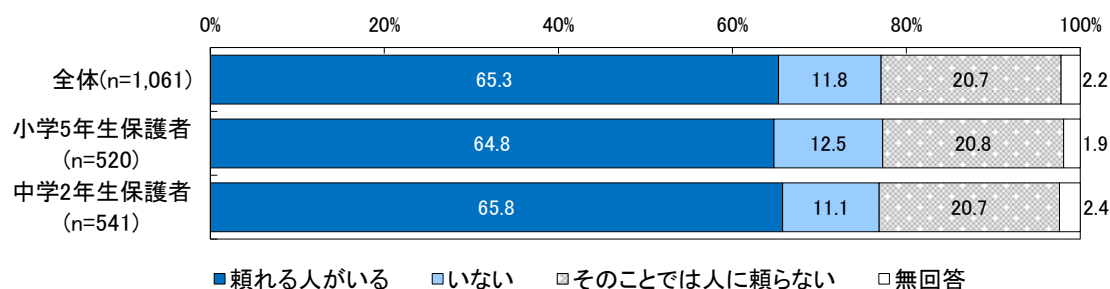
<重要な事柄の相談>

【重要な事柄の相談で頼れる人の有無】



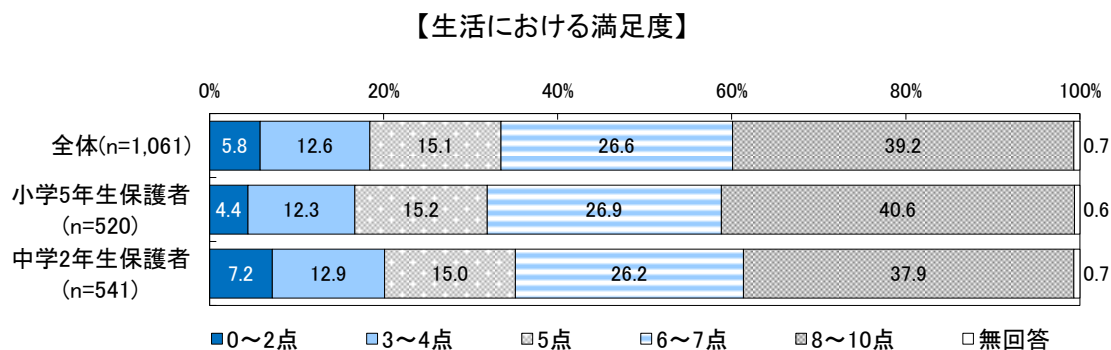
<いざという時のお金の援助>

【いざという時のお金の援助を頼れる人の有無】

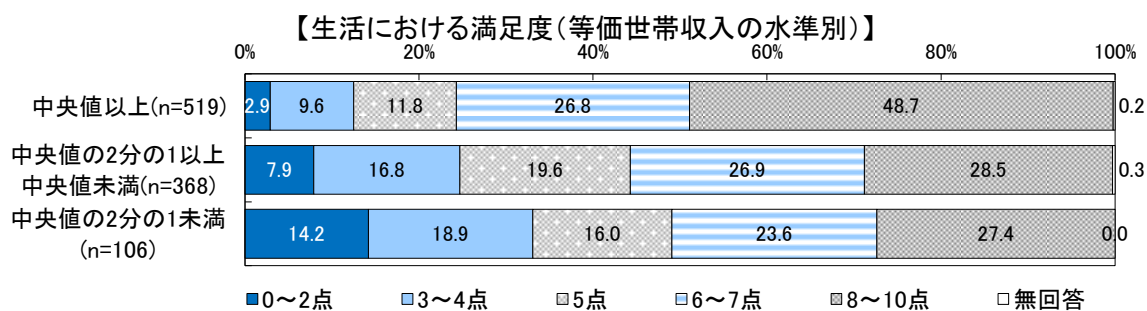


(9) 生活における満足度

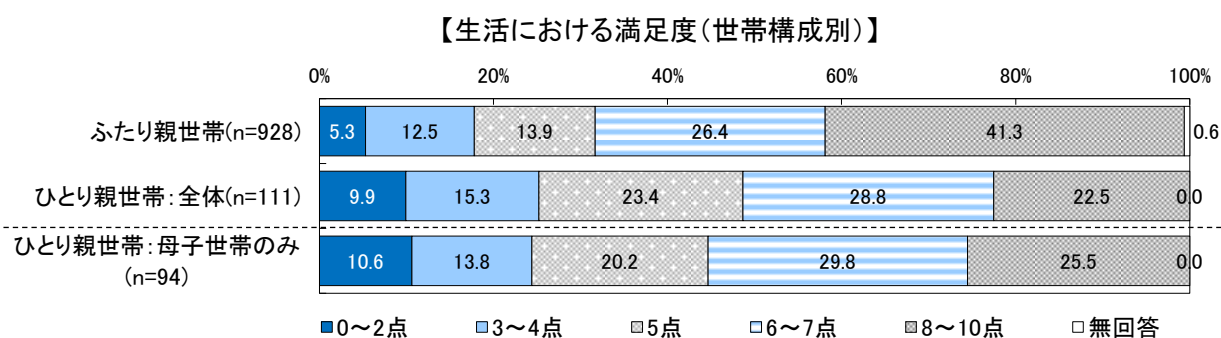
- 生活における満足度について、「8～10点」と回答した割合は小学5年生保護者で40.6%、中学2年生保護者で37.9%、「0～2点」と回答した割合は小学5年生保護者で4.4%、中学2年生保護者で7.2%となっている。



- 等価世帯収入の水準別にみると、「0～2点」と回答した割合は、等価世帯収入の水準が低いほど高くなっている。



- 世帯構成別にみると、「0～2点」と回答した割合に特徴的な差は見られない。

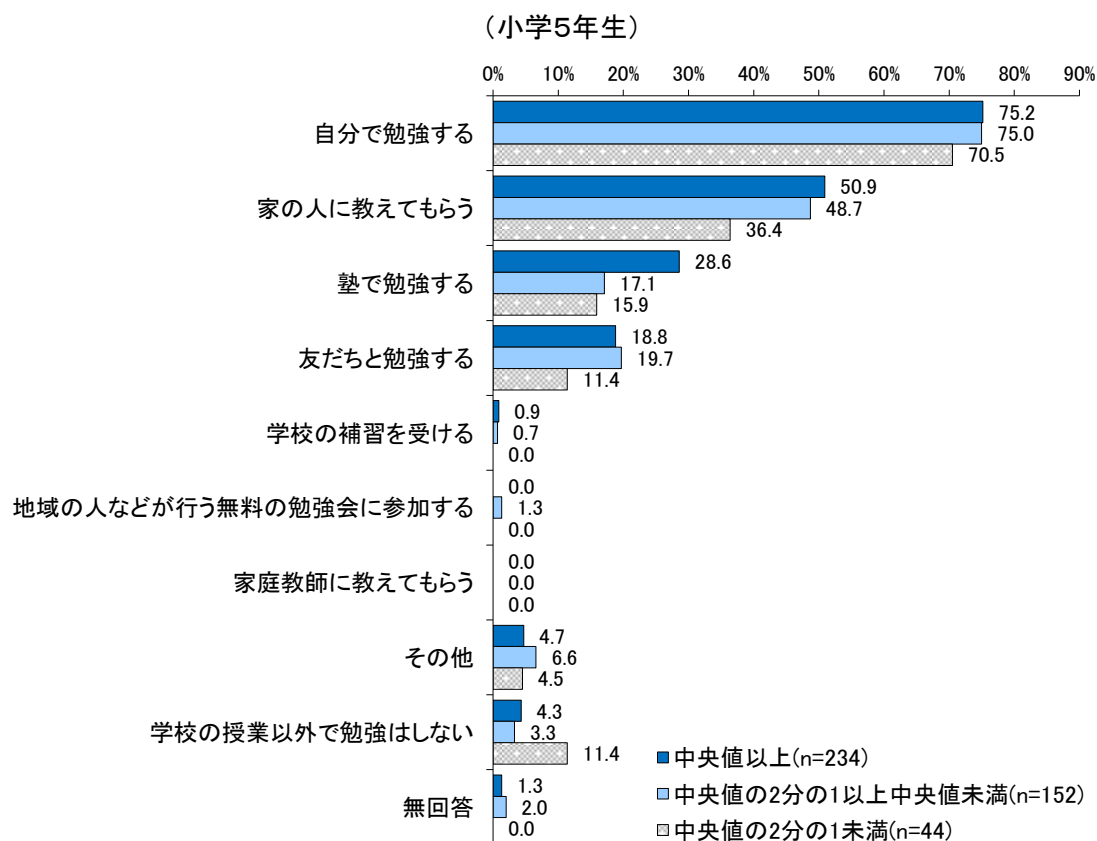


3 子ども票調査結果

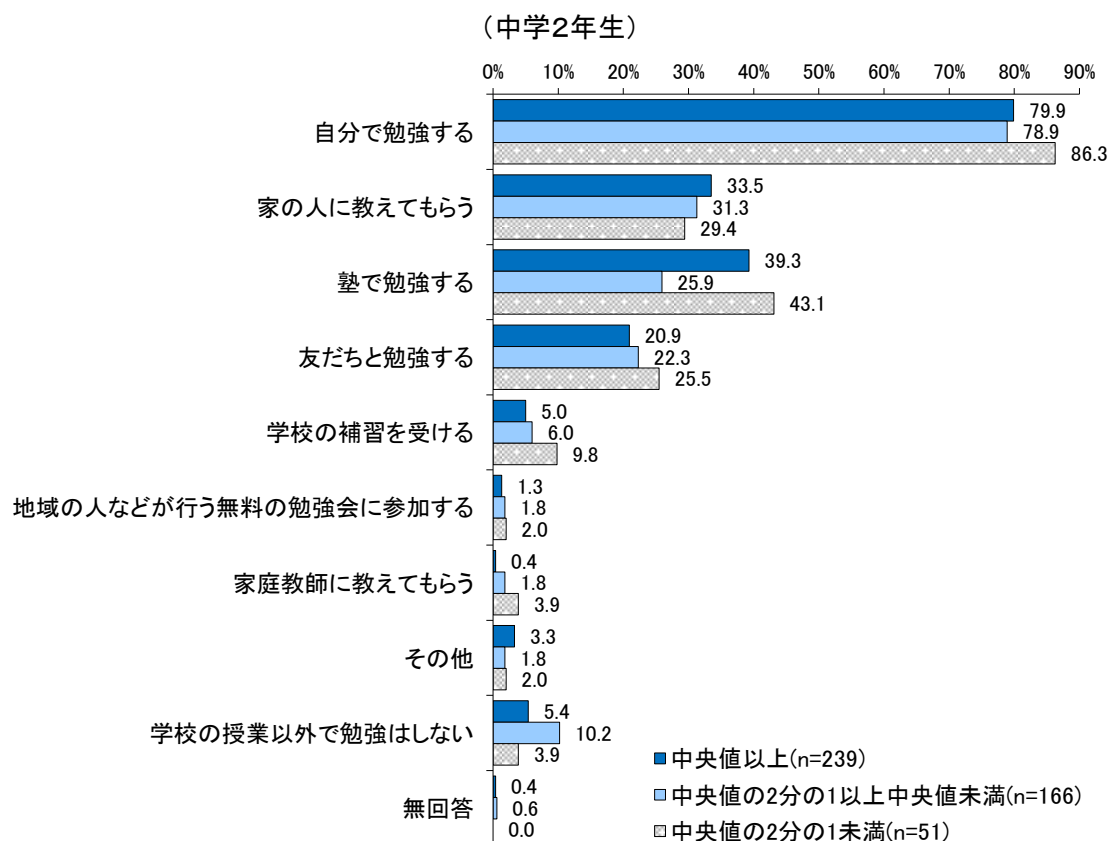
(1) 授業以外での勉強の状況

- 授業以外での勉強の状況について、等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生では、「塾で勉強する」と回答した割合は、「中央値以上」で28.6%、「中央値の2分の1以上中央値未満」で17.1%、「中央値の2分の1未満」で15.9%となっている。

【授業以外での勉強の状況(等価世帯収入の水準別)】



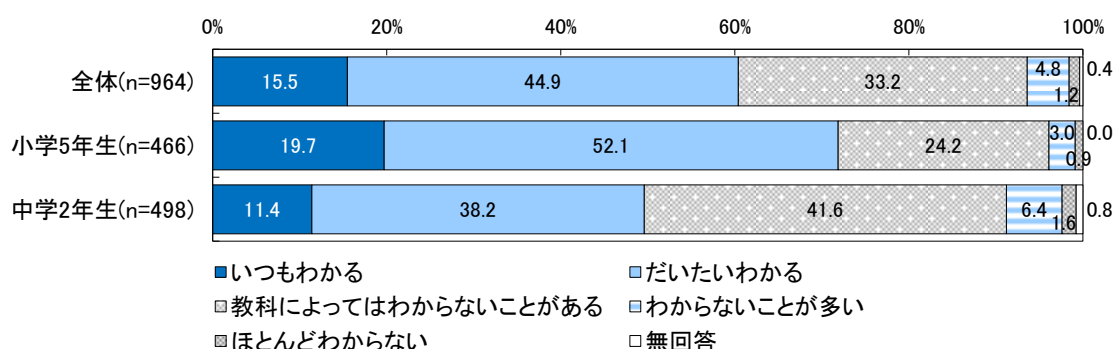
- 中学2年生では、「塾で勉強する」と回答した割合は、「中央値以上」で39.3%、「中央値の2分の1以上中央値未満」で25.9%、「中央値の2分の1未満」で43.1%となっている。



(2) 授業の理解度

- 授業の理解度について、『わからない』（「教科によってはわからないことがある」＋「わからないことが多い」＋「ほとんどわからない」と回答した割合は小学5年生で28.1%、中学2年生で49.6%となっている。

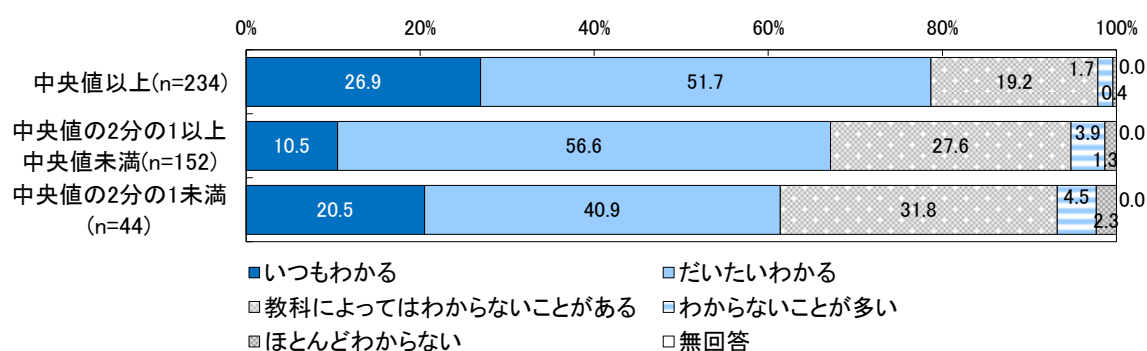
【授業の理解度】



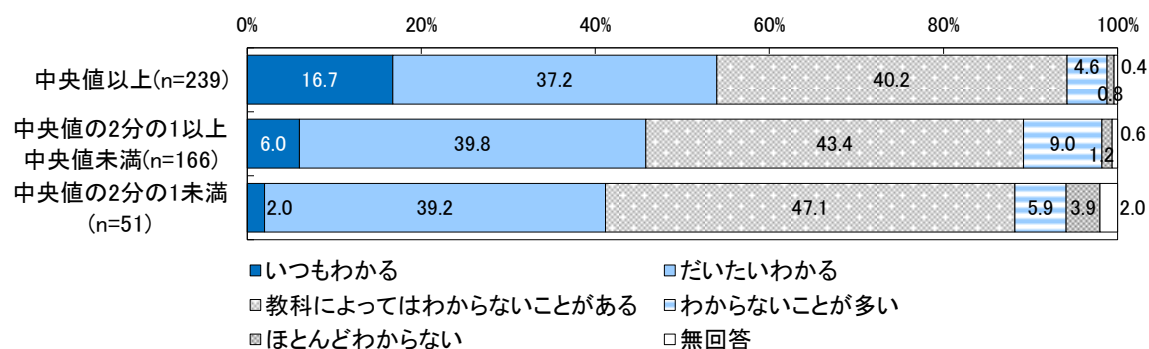
- 等価世帯収入の水準別にみると、『わからない』と回答した割合は、小学5年生、中学2年生ともに、等価世帯収入の水準が低いほど高くなっている。

【授業の理解度(等価世帯収入の水準別)】

(小学5年生)



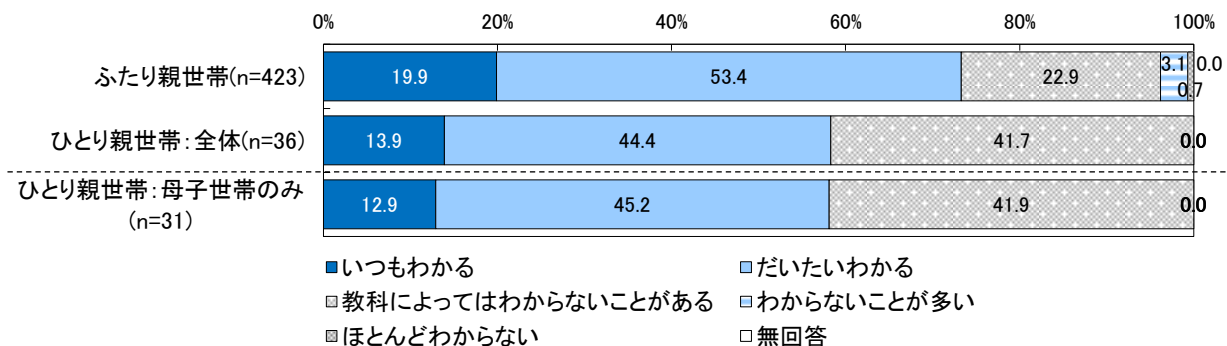
(中学2年生)



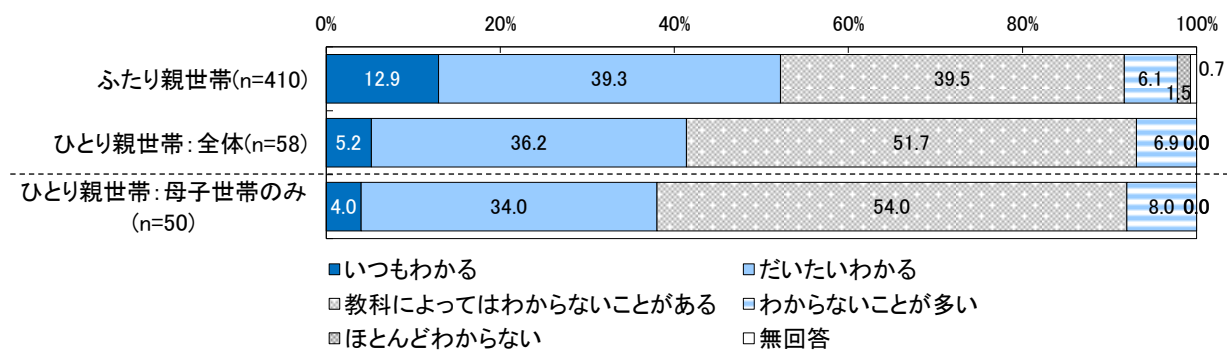
- 世帯構成別にみると、『わからない』と回答した割合は、小学5年生のひとり親世帯で4割台、中学2年生のひとり親世帯で5割台、母子世帯のみで6割台となっている。

【授業の理解度(世帯構成別)】

(小学5年生)



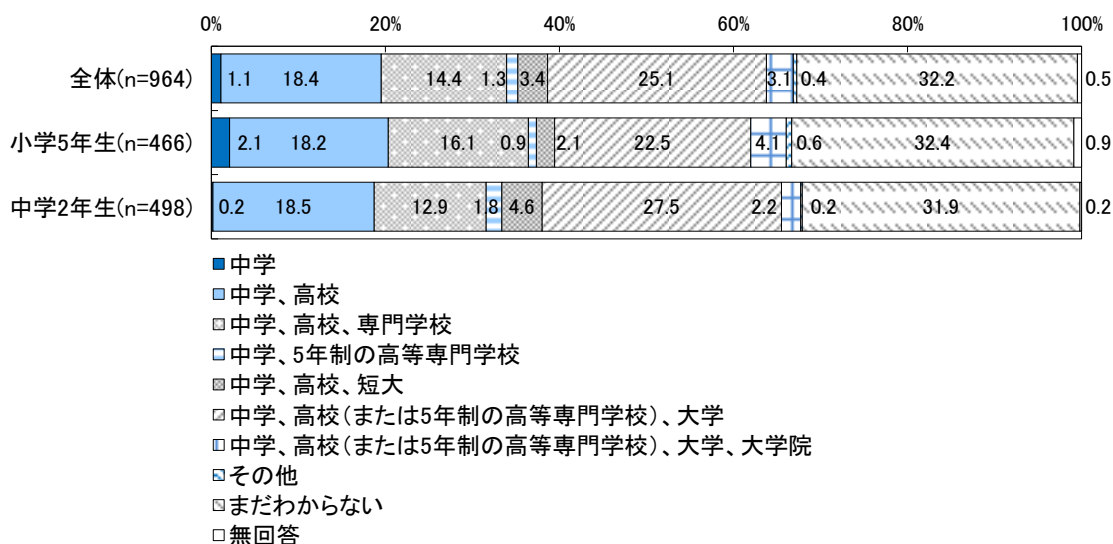
(中学2年生)



(3) 希望する進学先

- 希望する進学先について、『大学以上』（「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」＋「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学、大学院」）と回答した割合は小学5年生で26.6%、中学2年生で29.7%となっている。

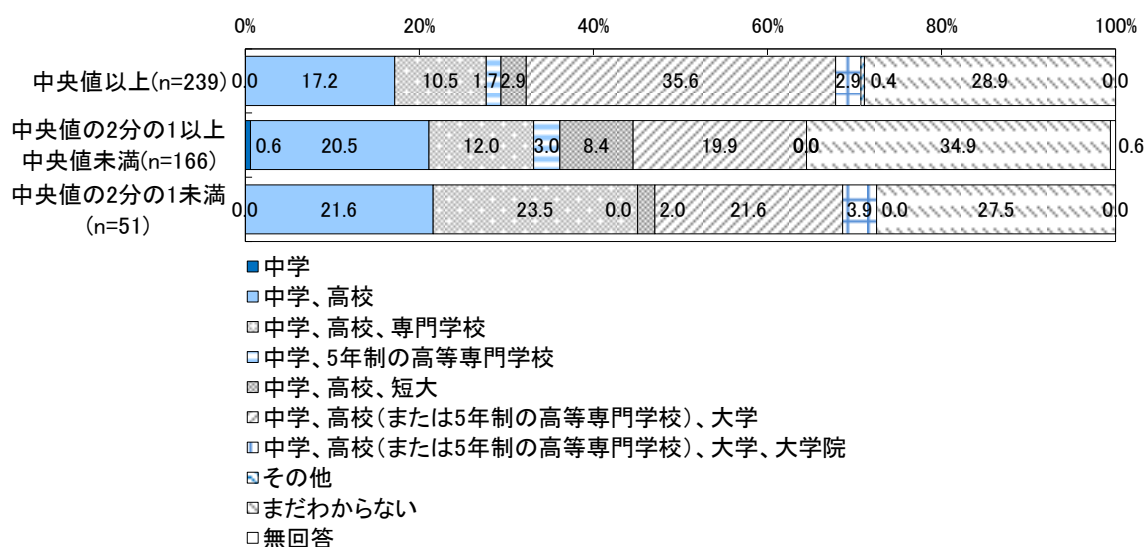
【希望する進学先】



- 等価世帯収入の水準別にみると、『大学以上』と回答した割合は、中学2年生では「中央値以上」で38.5%、「中央値の2分の1以上中央値未満」で19.9%、「中央値の2分の1未満」で25.5%となっている。

【希望する進学先(等価世帯収入の水準別)】

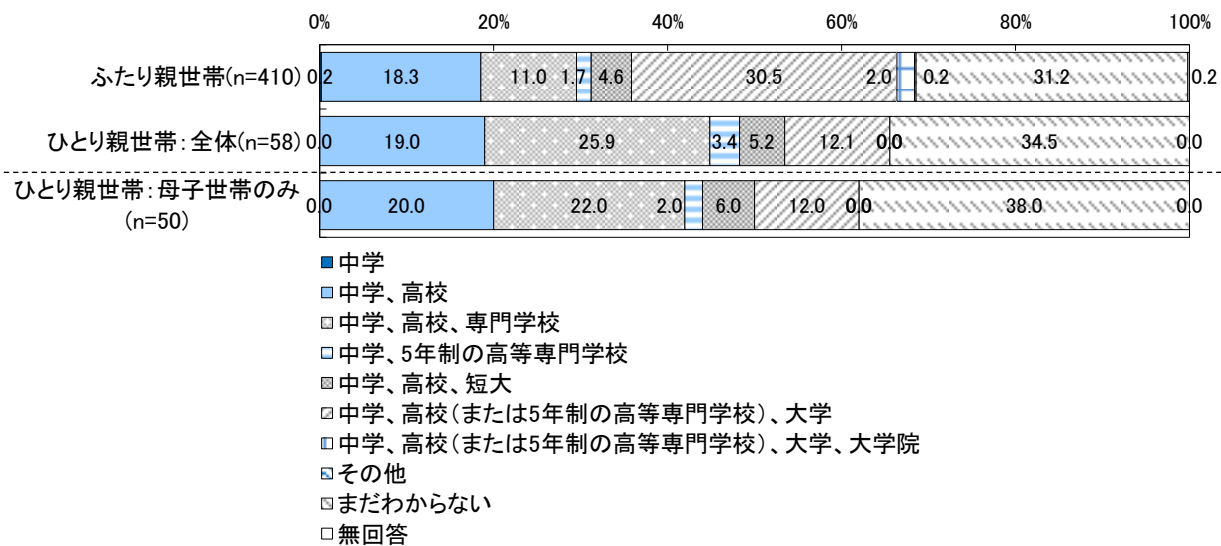
(中学2年生)



- 世帯構成別にみると、『大学以上』と回答した割合は、中学2年生ではひとり親世帯で1割台となっている。

【希望する進学先(世帯構成別)】

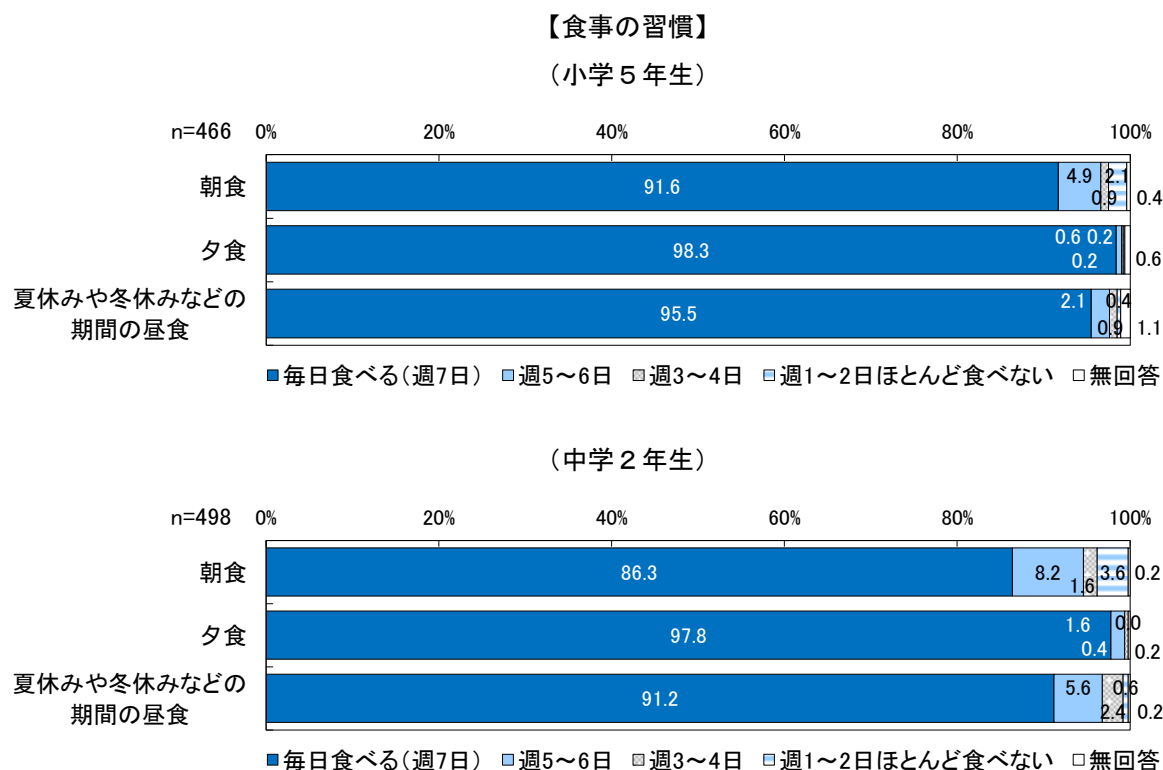
(中学2年生)



(4) 生活習慣

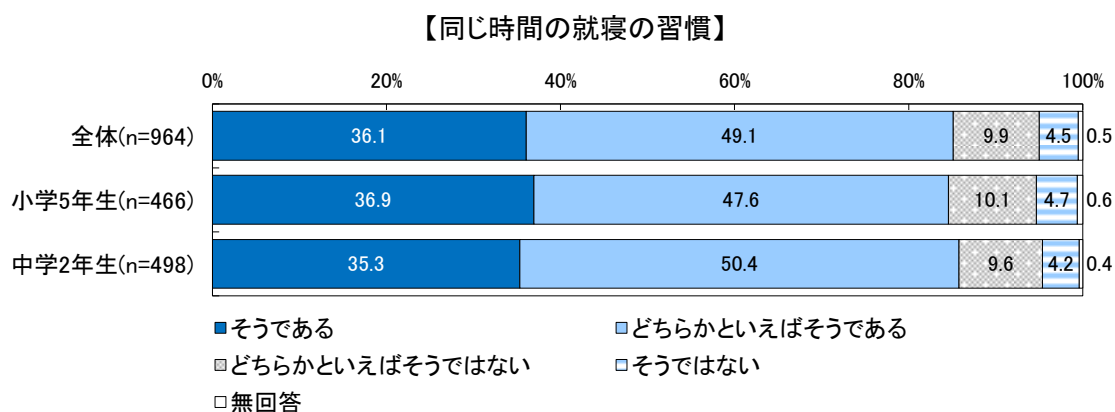
①食事の習慣

- 食事の習慣について、「毎日食べる（週7日）」と回答した割合は、朝食では小学5年生で91.6%、中学2年生で86.3%、夕食では小学5年生で98.3%、中学2年生で97.8%、夏休みや冬休みなどの期間の昼食では小学5年生で95.5%、中学2年生で91.2%となっている。



②就寝の習慣

- 就寝時間について、『同じ時間に寝ていない』（「そうではない」+「どちらかといえばそうではない」）と回答した割合は小学5年生で14.8%、中学2年生で13.8%となっている。

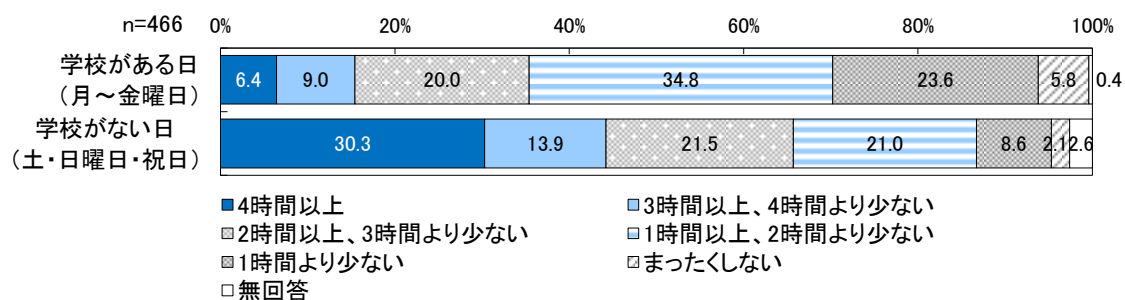


③ゲームやインターネット視聴の習慣

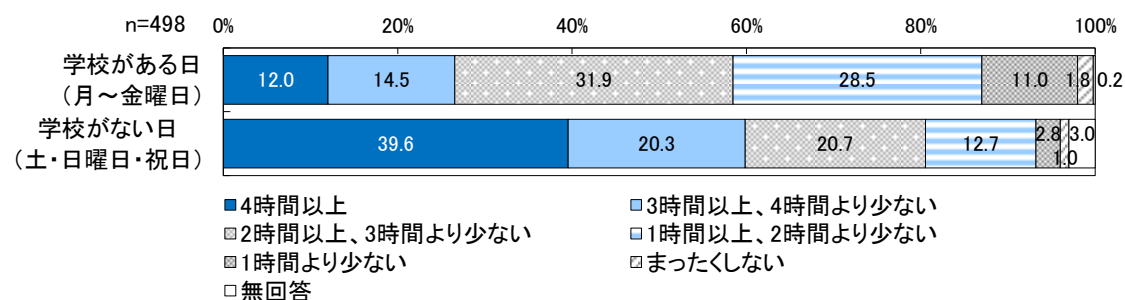
- ゲームやインターネット視聴の習慣について、『2時間以上』と回答した割合は、学校がある日（月～金曜日）が小学5年生で35.4%、中学2年生で58.4%、学校がない日（土・日曜日・祝日）が小学5年生で65.7%、中学2年生で80.6%となっている。

【ゲームやインターネット視聴の習慣】

（小学5年生）

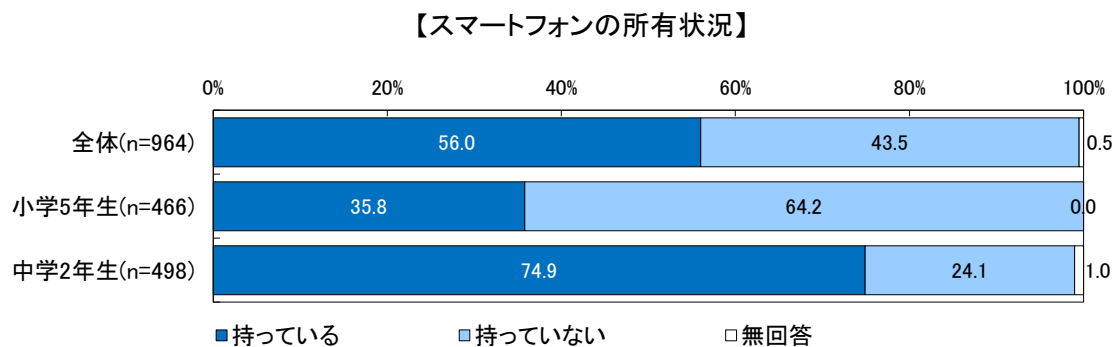


（中学2年生）

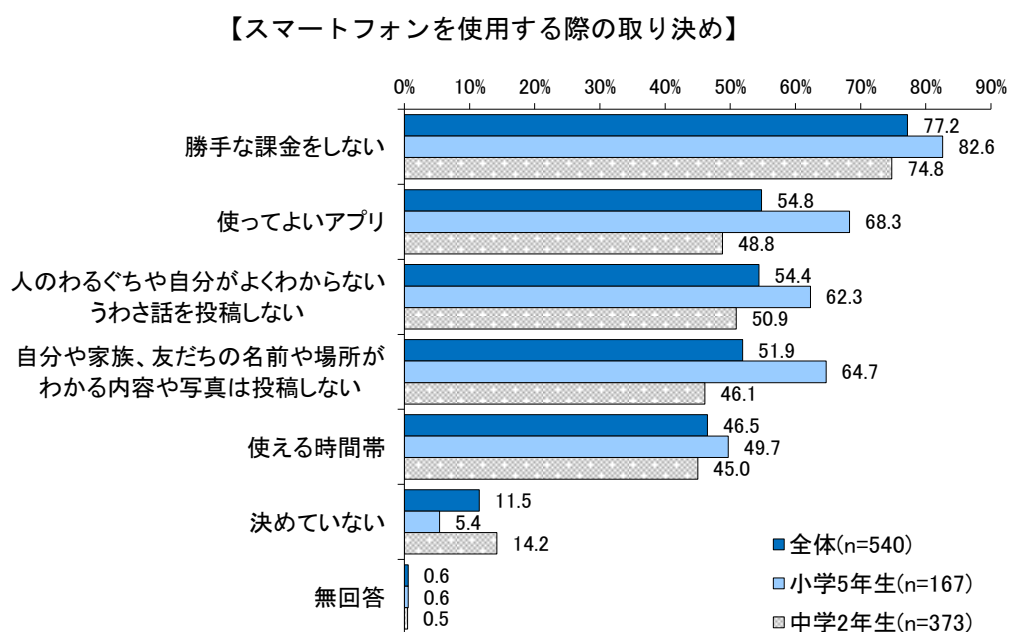


④スマートフォンの所有状況

- スマートフォンの所有状況について、「持っている」と回答した割合は小学5年生で35.8%、中学2年生で74.9%となっている。

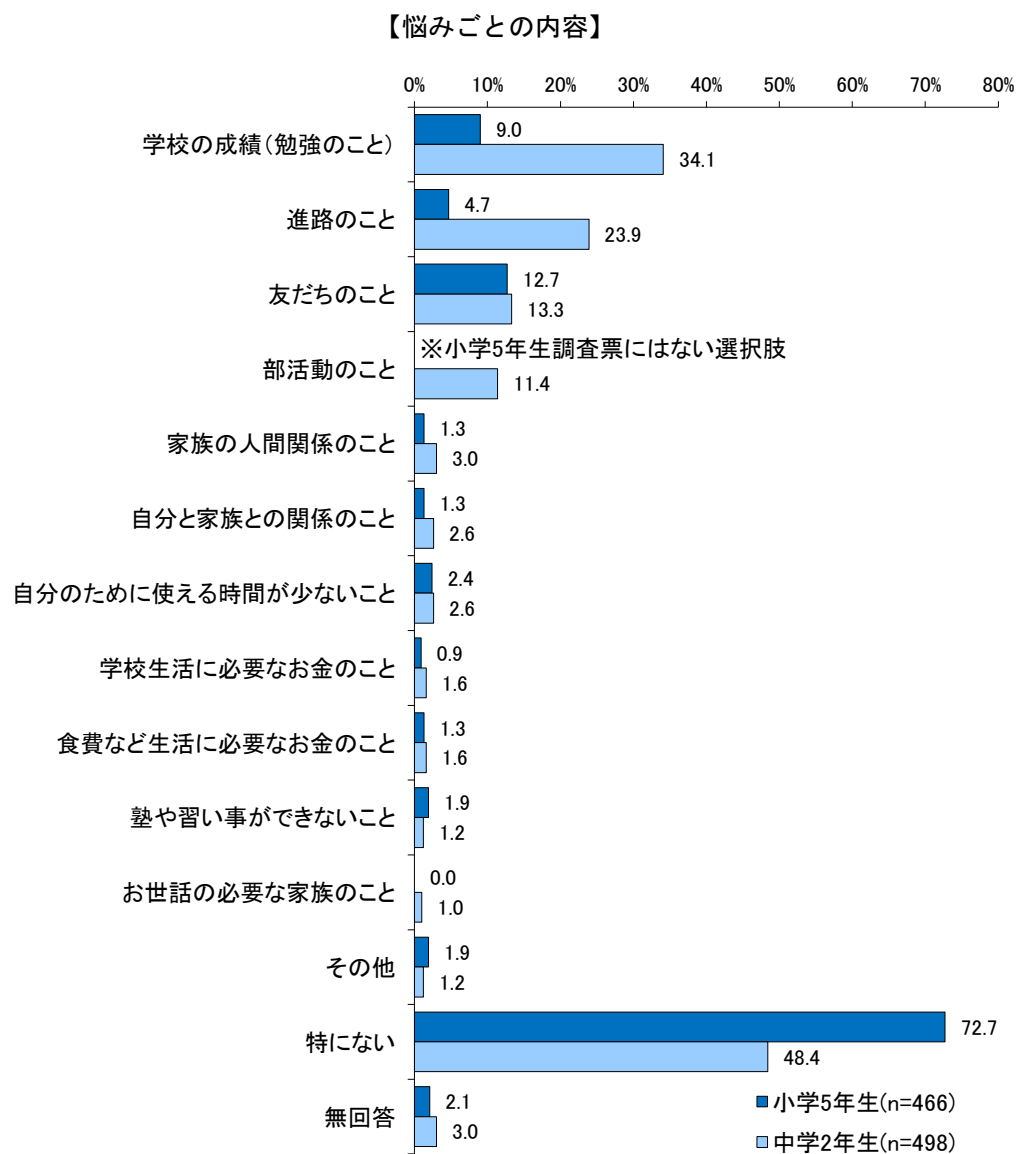


- スマートフォンを使用する際の取り決めについて、「決めていない」と回答した割合は小学5年生で5.4%、中学2年生で14.2%となっている。



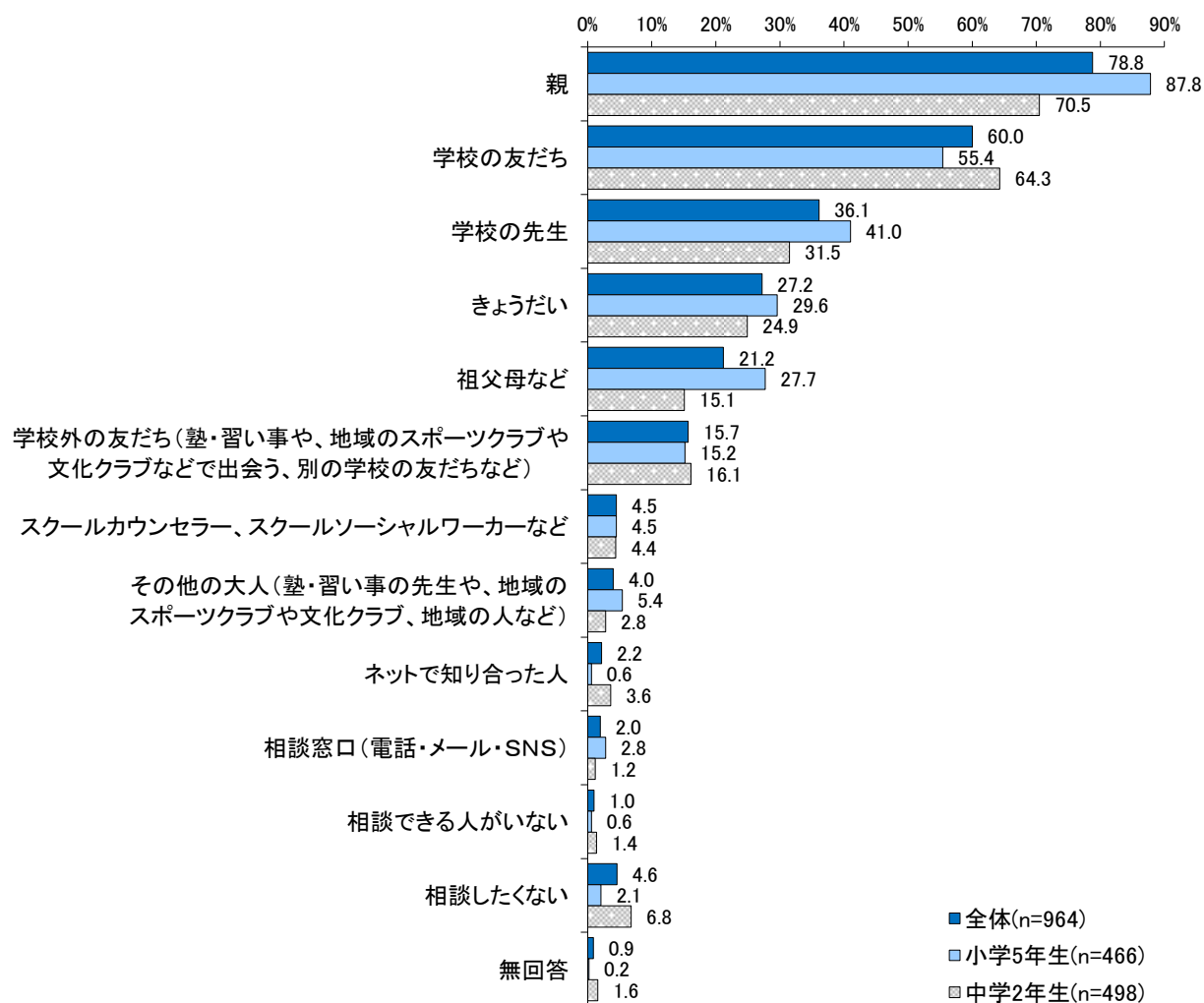
(5) 悩みや困りごと

- 悩みごとについて、何らかの悩みを回答した割合は、小学5年生で 25.2%、中学2年生で 48.6%となっている。
- 悩みごとの内容について、小学5年生では「友だちのこと」、「学校の成績（勉強のこと）」、中学2年生では「学校の成績（勉強のこと）」、「進路のこと」と回答した割合が上位となっている。



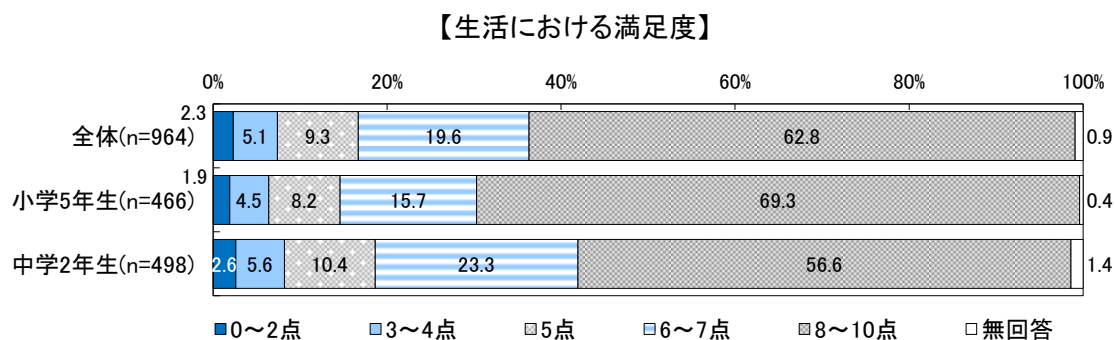
- 悩みや困りごとの相談相手について、「親」や「学校の友だち」に続いて、「学校の先生」が上位となっている。
- 「相談できる人がいない」と回答した割合は、小学5年生で0.6%、中学2年生で1.4%となっている。

【悩みや困りごとの相談相手】

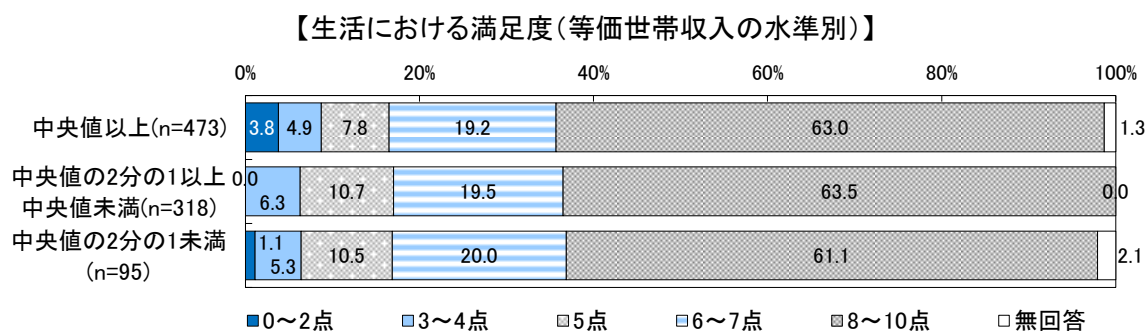


(6) 生活における満足度

- 生活における満足度について、「8～10点」と回答した割合は小学5年生で69.3%、中学2年生で56.6%、「0～2点」と回答した割合は小学5年生で1.9%、中学2年生で2.6%となっている。
- 平均は小学5年生で8.1点、中学2年生で7.5点となっている。

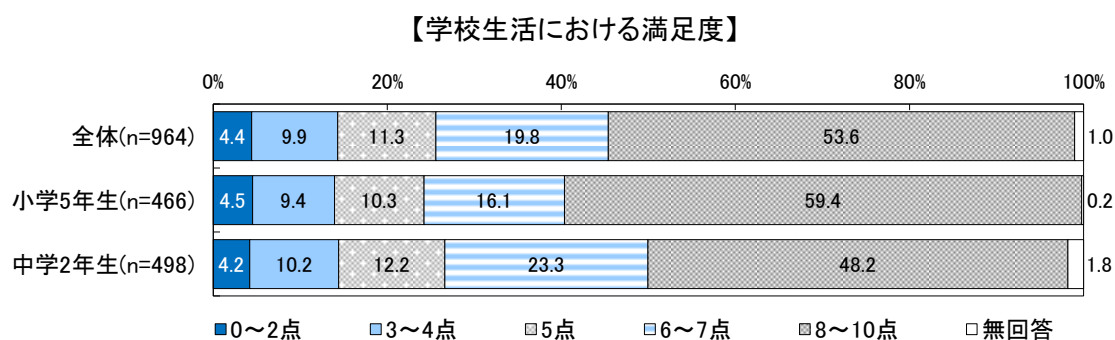


- 等価世帯収入の水準別にみると、特徴的な差は見られない。



(7) 学校における満足度

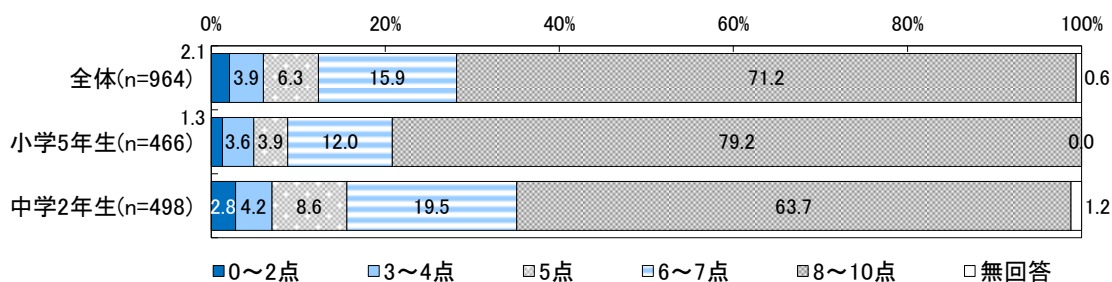
- 学校生活における満足度について、「8～10点」と回答した割合は小学5年生で59.4%、中学2年生で48.2%、「0～2点」と回答した割合は小学5年生で4.5%、中学2年生で4.2%となっている。
- 平均は小学5年生で7.4点、中学2年生で7.0点となっている。



(8) 家庭における満足度

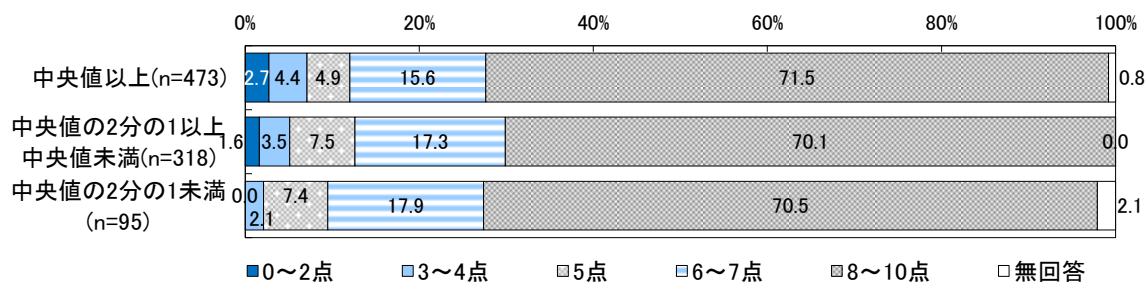
- 家庭生活における満足度について、「8～10点」と回答した割合は小学5年生で79.2%、中学2年生で63.7%、「0～2点」と回答した割合は小学5年生で1.3%、中学2年生で2.8%となっている。
- 平均は小学5年生で8.7点、中学2年生で7.9点となっている。

【家庭生活における満足度】



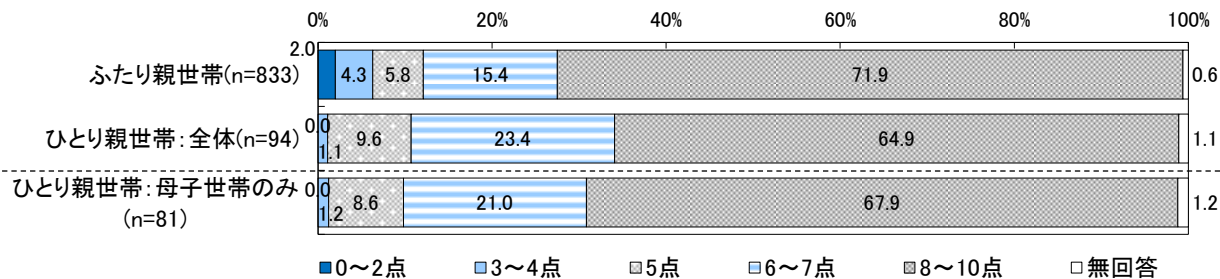
- 等価世帯収入の水準別にみると特徴的な差は見られない。

【家庭生活における満足度(等価世帯収入の水準別)】



- 世帯構成別にみると、「8～10点」と回答した割合は、ひとり親世帯でやや低くなっている。

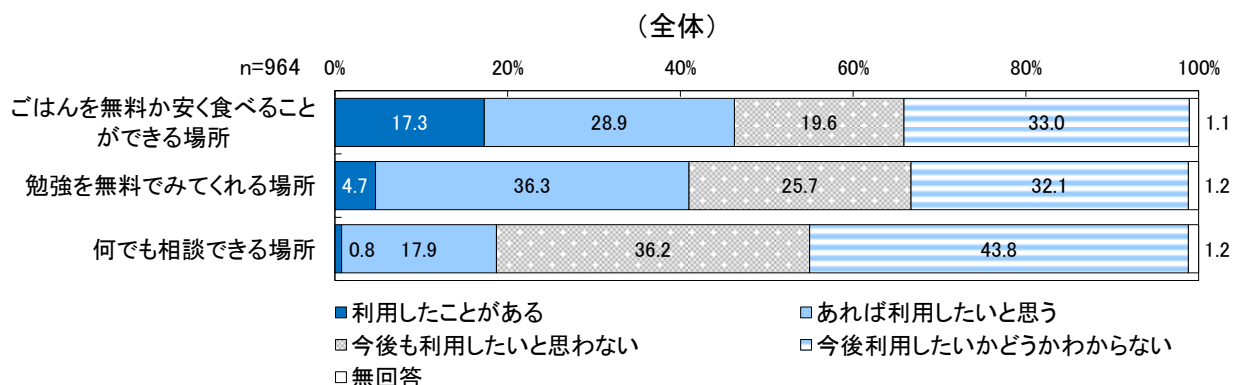
【家庭生活における満足度(世帯構成別)】



(9) 子どもの居場所

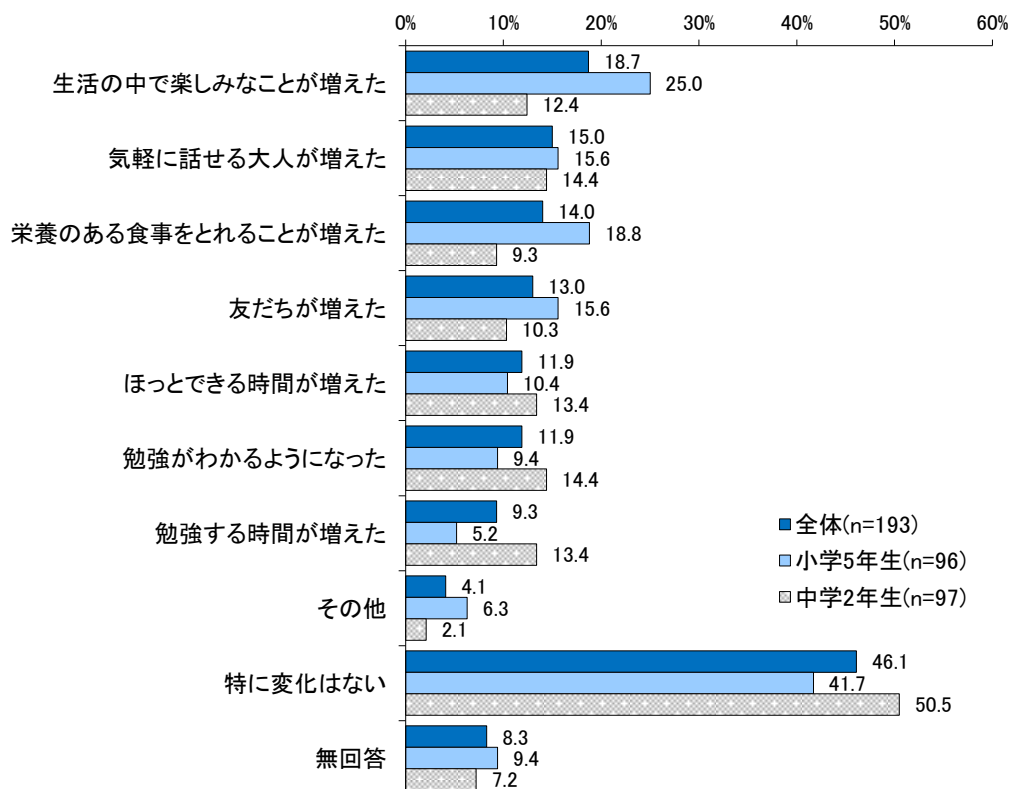
- 子どもの居場所の利用状況について、「利用したことがある」と回答した割合は、「ごはんを無料か安く食べることができる場所」で 17.3%、「勉強を無料でみてくれる場所」で 4.7%、「何でも相談できる場所」で 0.8%となっている。
- 「あれば利用したいと思う」と回答した割合は、「ごはんを無料か安く食べることができる場所」で 28.9%、「勉強を無料でみてくれる場所」で 36.3%、「何でも相談できる場所」で 17.9%となっている。

【子どもの居場所の利用状況】



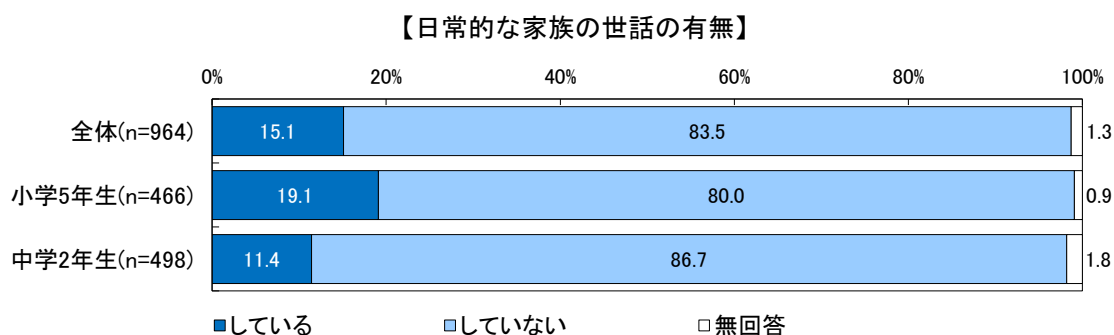
- 子どもの居場所を利用したことによる変化について、「生活の中で楽しみなことが増えた」と回答した割合は小学5年生で 25.0%、中学2年生で 12.4%、「気軽に話せる大人が増えた」と回答した割合は小学5年生で 15.6%、中学2年生で 14.4%、「栄養のある食事をとれることが増えた」と回答した割合は小学5年生で 18.8%、中学2年生で 9.3%となっている。

【子どもの居場所を利用したことによる変化】

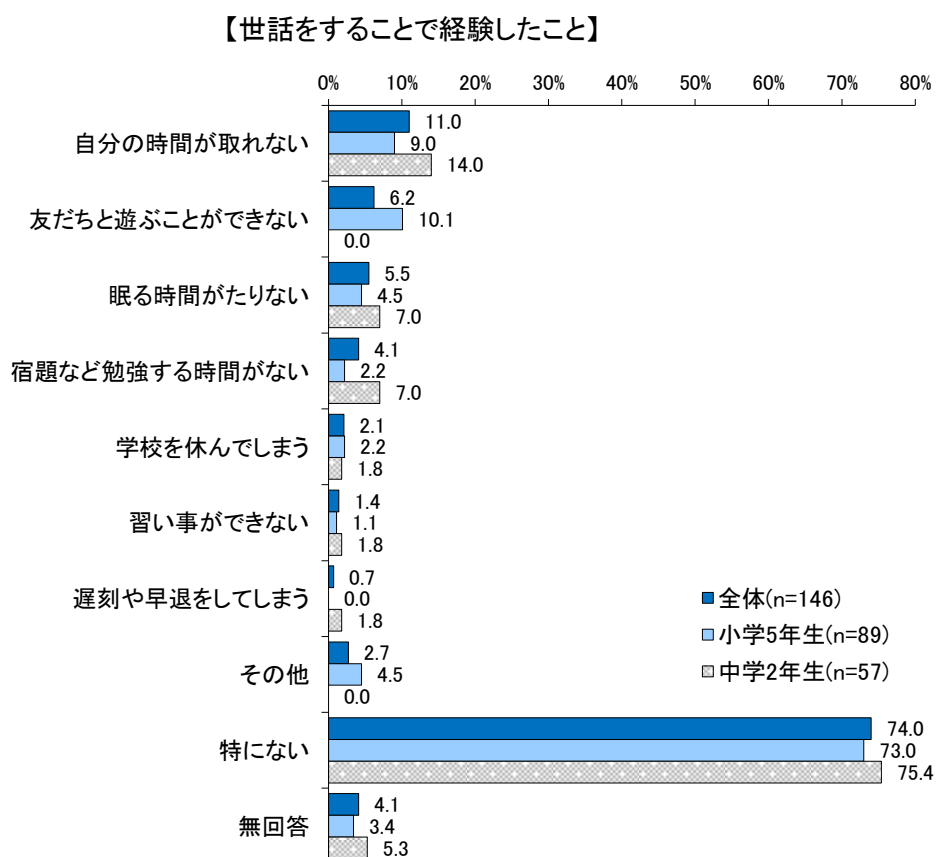


(10) 「ヤングケアラー」について

- 日常的な家族の世話の有無について、「している」と回答した割合は小学5年生で19.1%、中学2年生で11.4%となっている。

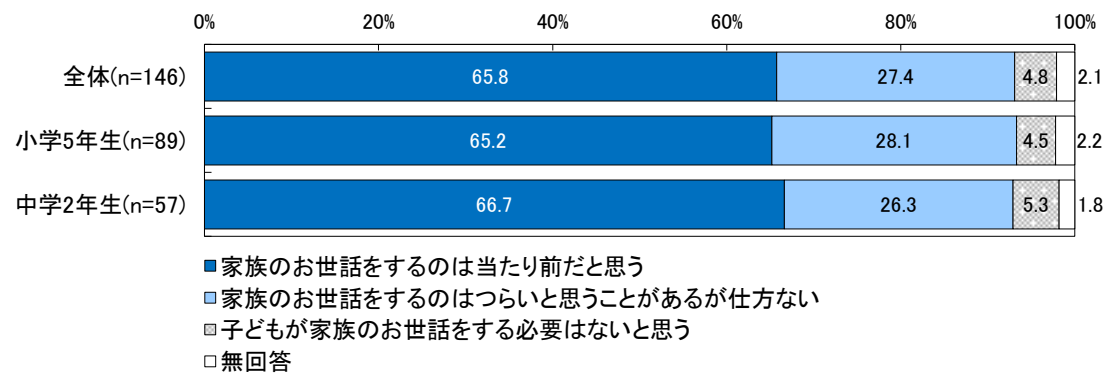


- 世話を「している」子どものうち、世話をすることで何らかの生活の影響を回答した割合は小学5年生で23.6%、中学2年生で19.3%となっている。
- 経験した内容は、「自分の時間が取れない」と回答した割合は小学5年生で9.0%、中学2年生で14.0%、「眠る時間がたりない」と回答した割合は小学5年生で4.5%、中学2年生で7.0%となっている。



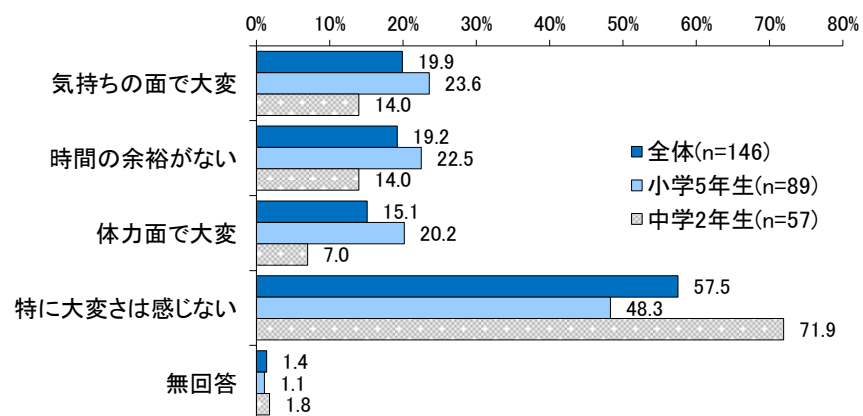
- 世話を「している」子どものうち、家族の世話をすることへの考え方について、「家族のお世話をするのは当たり前だと思う」と回答した割合は小学5年生で 65.2%、中学2年生で 66.7%、「家族のお世話をするのはつらいと思うことがあるが仕方ない」と回答した割合は小学5年生で 28.1%、中学2年生で 26.3%となっている。

【家族の世話をすることへの考え方】



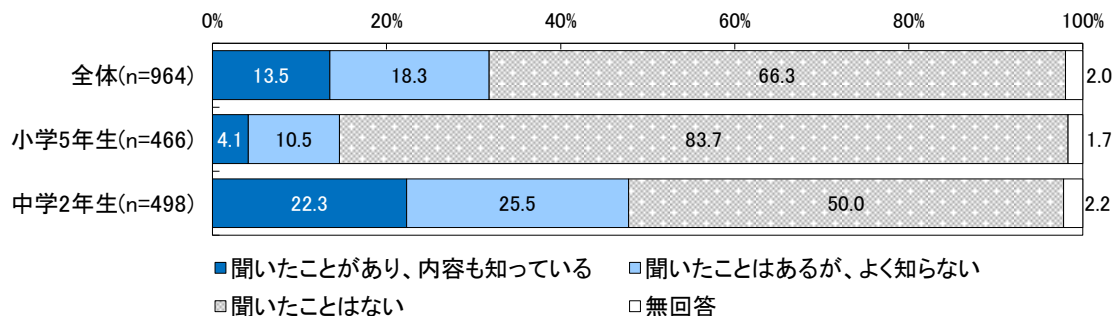
- 世話を「している」子どものうち、世話をする上で大変さを回答している割合は小学5年生で 50.6%、中学2年生で 26.3%となっている。
- 世話をする上で大変さについて、「気持ちの面で大変」と回答した割合は小学5年生で 23.6%、中学2年生で 14.0%、「時間の余裕がない」と回答した割合は小学5年生で 22.5%、中学2年生で 14.0%となっている。

【世話をする上で大変さを感じる事】



- 「ヤングケアラー」という言葉の認知度について、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合は小学5年生で4.1%、中学2年生で22.3%、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した割合は小学5年生で83.7%、中学2年生で50.0%となっている。

【「ヤングケアラー」という言葉の認知度】



「検討すべき課題」

- 「貧困」の課題を抱えている世帯であると考えられる「中央値の2分の1未満」に該当する世帯が小学5年生保護者で9.2%、中学2年生保護者で10.7%であり、ひとり親世帯では48.6%、母子世帯のみでは54.3%となっている。
- 「中央値の2分の1未満」の世帯では母親、父親ともに「正社員・正規職員・会社役員」の割合が低くなっており、保護者の就労のための資格取得や能力向上に向けた支援等により、経済的に困難な状況にある子育て家庭の生活の自立を促進することが重要である。
- 保護者の経済状況や世帯状況により生活実態をみると、等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、学校の授業の理解度について『わからない』と回答する割合が高く、保護者が子どもの大学への進学を希望する割合が低いなどの傾向があり、保護者の経済状況が子どもの学習状況に影響を与えている結果となっているため、保護者の経済状況や世帯状況等にかかわらず、すべての子どもの自立を支援するための教育環境の充実を図ることが重要である。
- 保護者で子育てに関する相談で頼れる人が「いない」と回答した割合が4.1%、重要な事柄の相談で頼れる人が「いない」と回答した割合が4.7%という結果となっている。
- 子どもの居場所について、利用状況は様々であるが、実際に利用した小学5年生では約5割、中学2年生では約4割に何らかの良い変化がみられている。
- 日常的な家族の世話の有無について、「している」と回答した割合が小学5年生で19.1%、中学2年生で11.4%となっており、そのうち、世話をすることで何らかの生活の影響を回答した割合は小学5年生で23.6%、中学2年生で19.3%となっている。
- 「ヤングケアラー」という言葉の認知度が低くなっており、ヤングケアラーを早期に発見して適切な支援につなげるためには、「ヤングケアラー」に関して正しく理解するための啓発が重要である。
- 近年、子どもの貧困、ヤングケアラー等、子どもや子育て世帯を取り巻く環境においては、様々な課題が顕在化してきており、個人が抱える課題も複雑化しているため、子どもや子育てを行う保護者が困難な状況の中で孤立しないよう、相談しやすい体制・環境づくりや、多様な居場所づくりを進めていくことが重要である。